

OCHISセミナー

「健康データの活用を」

ハイリスク者が2割超

ヘルスケアネットワーク（武田裕理事長）は15日、大阪市で「今こそ10年後を見据えた元気集団をつくる」と題したセミナーを開催し、約100人が参加した。従業員の高齢化に直面するトラック企業が增える中、定期健康診断のデータを適切に管理することで、安心・安全に働ける環境が整備されると訴えた。

作本貞子副理事長は「健康経営が広がる中、企業間の健康格差が広がっている」と指摘した。全日本トラック協会の受託事業で、定期健診の事後フォローを支援する「運輸ヘルスケアナビシステム[®]」の2023年度データによると、肥満、高血圧、脂質異常、高血糖のうち、3項目以上に該当するドライバーのハイリスク者は20・2%で、前年度から1・8%増えた。

を実施。SAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニングも取り入れた結果、高血圧者が全体の3割4割から2割を切るまで減少したという。

また、ドライバー自身の生活環境の見直しも提言した。24年度に実施したフローアッパアンケートによると、ストレスを感じている人のうち、睡眠時間が6時間未満は61・5%を占めていた。1日の労働時間が8時間未満で、インターバル時間が十分にあっても睡眠が6時間未満は35・7%おり、行動変容が求められていることが分かった。

対策を実施し
高血圧者減少

講演に立った安島なつき保健師は「健康データは厳然な事実で、明確な課題が把握できる」とし、「改善目標の設定や評価がしやすく、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルしやすい」とした。高血圧対策に取り組んだ企業では21年から、点呼時の血圧測定や健診結果による受診勧奨

今回のセミナーもウェブ配信を実施。基調講演には国土交通省物流・自動車局の永井啓文安全政策課長、全日本トラック協会交通・環境部の齋藤晃部長が登壇し、健康起因事故の防止に向けた支援策などを話した。

（遠藤 仁志）

項目別の有所見率で